

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原駅北口地区まちづくり推進会議				
事務局 (担当課)		相模原駅周辺まちづくり課 電話 042-707-7026 (直通)				
開催日時		令和3年2月4日(木) 18時00分～19時45分				
開催場所		WEB会議				
出席者	委員	15人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	12人(広域交流拠点推進部長、相模原駅周辺まちづくり課長、外10人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	3人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 議題 (1) 導入機能の方向性(目指すまちの姿、活動のイメージ)の検討について (2) 市民意向把握に係る実施方針の検討について (3) その他 3 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

(〃 は委員の発言、 〃 は会長の発言、 〃 は事務局の発言)

1 開会

2 議題

第1回相模原駅北口地区まちづくり推進会議の確認

事務局より資料1に基づき説明を行った。

郵送アンケートの結果について、高校生と一般(20代以上)を比較しているが、高校生の回答が「高い意見」のみでなく、高校生の回答が「低い意見」にも着目した方がよい。

(1) 導入機能の方向性(目指すまちの姿、活動のイメージ)の検討について

事務局から資料2に基づき説明を行った。

【ライフに関する目指すまちの姿、活動のイメージについて】

ライフの活動イメージが交流・にぎわいにつながると思う。資料にある「目指すまちの姿(例)」から、地域の人顔が見える暮らしをイメージした。ライフの目指すまちの姿に「地域一体」や「コミュニティ」というキーワードを入れてはどうか。

「ライフ×イノベーションシティ」や「今後の発展の起爆剤となる新市街地の形成」という表現は、とてもきれいであるが、具体的な内容をイメージしづらかったので、事務局からの資料説明を受けて、目指すまちの姿をイメージしやくすくなった。

相模原駅北口地区のまちづくりにおいては、「周辺地区の今後の発展の起爆剤となる新市街地の形成の実現」という目標を掲げているが、具体的にどのようなまちになるのかというところが見えづらかった。そのため、前回の会議で将来のまちのイメージとしていただいたご意見の中から、キーワードを整理した。そのキーワードをもとに活動のイメージ・過ごし方のイメージを作成し、そこから具体的に、もう少しシンプルに、目指すまちの姿を例示した。

先日、相模原スポーツ・レクリエーションパークがオープンし、地域住民も喜んでいる。高齢者の方に話しを聞いたところ、集いやすい施設が欲しいという声があった。地域一体となって盛り上げる力のあるまちになるとよい。次世代を担う子どもたちと共に成長するまちについて、大人が見守り、共に話し合

いながら築ける方法を考えたい。

地域の方に話を聞いたところ、アウトレットパークやショッピングセンター、中学校を作ってほしいという声があった。愛知県の半田市で古くなった中学校を有効活用し、地域の活性化に寄与したという事例があるので、参考にさせていただきたい。また、アンケート調査を行う際は、具体的な施設名がないと答えづらいと思う。

コロナ禍で経済的、精神的なダメージが大きい中でも、人と会い交流するところの根底には、豊かさや充実感があると思う。豊かな時間という文言があったが、豊かさは重要なものの一つと考えている。さがまち学生クラブの活動を通して、若者の居場所や人々がつながる場所の必要性を感じており、イベントなどが行われる特別日に、継続的に地域の人と関わることができるとよい。地域を訪れた人が自ら参加し、主体的に地域に関わることは、地域への愛着につながるのではないかと考える。地域一体というキーワードが入るとよい。受動的にサービスを受けるだけでなく、まちにあったらいいなという思いを反映できる機会があるとよいと感じている。連携というキーワードが入るとよい。

豊かさや主体的に動くという意見に賛成である。豊かさを市民が主体となって作るとすると、相模原だから何ができるかということから自ら考え、イベントをやってみようという話につながると考える。ショッピングセンターや老人ホームなど、施設をあげていくと様々な世代で多くの意見が出てくると思う。施設も大事であるが、施設をイメージしつつ、目指すまちの姿の方向性を決められるとよい。

相模原駅北口地区のまちづくりについては、3段階のステップで検討を進めたいと考えている。まずは、昨年度「ライフ×イノベーション シティ」というコンセプトを定めた。この「相模原駅北口地区まちづくり推進会議」では、6回程度の会議を進めながら、導入する機能についてまとめていきたい。その後、導入機能に基づいて、導入する施設を決めていくという手順を考えている。そのため、本会議の目標としては、導入する機能を整理することになる。ただし、導入機能ということだと、漠然としていてイメージしづらい部分もあるため、機能に関連する施設の例示は必要になるかと考えている。

相模原市民も含めて日本人が活用できる場所として、もっと国際的なことを検討した方がよいと考えている。例えば、全ての施設において、英語で話せる

場所にしてはどうか。、日本にいながら海外に旅をするような、非現実的な日常をそこにつくる、そんなイメージを持っている。これは極端な表現であるが、どのような施設が入ることになっても、そのような特別なフィルターをかけて企業誘致を行えば、特別な場所になるのではないか。特徴的なまちを作るためには、極端なことを行わなければならない。

子育て家族は、在宅勤務をしながら子育てをしている方もたくさんいるので、子どもを預けるだけでなく、互いに見守り支え合う住みやすいまちということで、子育て世代や高齢者も支え合いながら、パパ・ママたちが安心して子育てできるまちを目指してほしい。そのためには、コミュニティが大事で、子どもを安心して育てられる方が増えれば、ここで子育てをしようという人の流れができ、移住を促進できるのではないか。

【イノベーションに関する目指すまちの姿、活動のイメージについて】

防災、あるいは平坦で安定した強い地盤を生かした相模原ということのPRをどこかに入れていただきたい。最先端の技術を肌で体感できるまちといった中にも防災の視点は含まれてくると思う。

相模原市にはJAXAがあり、宇宙開発事業については有数の地域になる。将来さらに発展していくことが考えられるので、専門的な技術を習得できる教育機関を設けられるとよい。世界中の専門的な方々との交流が図れ、また、技術者の教育の場になるような施設があるとよい。

相模原市には、JAXAがあるので、イノベーション全体をJAXAを軸にまとめていけたらと考えている。相模原の特徴を生かすには、JAXAが一番だと考える。

コロナ禍にあり、東京から人口が流出している一方で、相模原で過ごす人の割合が増加傾向にあるというデータもある。郊外型のビジネス拠点になるとよい。

ライフでは、生命(健康・高齢者)・行動(集い・安心・仲間・地域・つながり・連携)・人生(安心感・顔の見えるコミュニティ・ライフスタイル)などについてご意見をいただいた。イノベーションについては、JAXAやロボット、AI、IoT、宇宙などのご意見をいただいた。これらは、教育や子育て、発信につながり、新技術は防災やテレワークにつながる。全体を一つでくくり、

多くの方が納得のいくコンセプトを作りたい。皆さんの意見を聞きながら「つながりシティ さがみはら」「つながりイノベーションシティ さがみはら」「つながり最先端シティ さがみはら」などを考えていた。議論した内容を生かし、機能あるいはゾーンとして実践できるとよい。

【交流・にぎわいに関する目指すまちの姿、活動のイメージについて】

相模原と言えば、JAXAやリニアもあり、誰が聞いてもわかるようなキーワードがある魅力的なまちだと感じている。実際に相模原市に住んで、自然が近く、また地盤が強いというところにも魅力を感じている。住みたいまちとして人口流入が増えることを期待している。住みたい、住み続けたいにつながるようなキーワードを入れてほしい。

相模原フェスタを毎年開催しているので、そのノウハウを生かし、相模原ブランドを発信できるとよい。ロボットの展示会などがあると、子どもたちが目を輝かせて見に来ているので、企業発信や産業交流ができるようなコンセプトになるとよい。

人口流入やスポーツ施設、イベント、商業施設など、人が集まるところには交流が生まれる。人が集まれば、市の財政が潤い、様々な方策を講じることができ、連鎖的な展開が可能となる。人が集まる機能を考えてはどうか。

次世代を担う子どもたちが成長し続けるまちというのは、非常に重要である。相模原ブランドを発信するにぎわい交流のあるまちとあるが、相模原青年会議所でも相模原ブランドについては議論しており、相模原市民が「自分たちのまちはこうだ」と言えることはとても重要だと思う。そのように思えることが、住みたい住み続けたいまちにつながるのではないか。

全体的には賛成であるが、総花的になっているため、優先順位をつけて進めることが重要である。

私がまちづくりや施設を考える際に、DoingとBeingに着目している。Doingベースで何々する場所として企画してしまうことが多いが、気持ちの変化をどう生み出すかというところに軸を置きながら施設計画を行うとよいと思っている。皆さんの意見を聞きながら、Beingベースで、何々な気持ちになる場所、何々な気持ちになるために必要な施設という考えが生まれると思った。

相模原市民が、神奈川県民が、ひいては首都圏がどうなるのかという視点があってもいいと思う。施設ができた結果、人々のライフスタイルがどう変わるのか、という視点でまちの姿を考えられるとよい。どのような施設を入れるか、が目的になってしまいがちだが、施設が入った結果、人々のライフスタイルがどのように豊かになるのか、地域全体にどのような効果が生まれるかという視点が大事だと思う。

ライフについては、地域コミュニティや地域一体、豊かな時間、連携、商業施設、自ら参加できる場所などのキーワードがあげられた。イノベーションについては、防災、安全、JAXA、技術者の教育の場、宇宙などのキーワードをいただいた。交流に関しては、自然や防災、ロボット特区、次世代などのキーワードをいただいた。これらのキーワードを踏まえて、事務局で再度整理を行い、目指すまちの姿についてとりまとめを行う。また、会長からは、つながりシティなどのキャッチフレーズをいただいたほか、人々がどのような気持ちになるか、人々のライフスタイルがどのようなになるか、などのご意見もいただいているので、目指すまちの姿をよりイメージできるような形で作り上げていきたいと考える。

(2) 市民意向把握に係る実施方針の検討について

事務局から資料3に基づき説明を行った。

設問に関して特に意見はないが、実施時期によっては新型コロナウイルス感染症の影響が出るのではないかと考える。

質問2-1が「どのような過ごし方をしたい」と「どのような過ごし方をしている人を見たい」の2通りの聞き方になっており、わかりにくい。

WEBアンケートの補足として対面のアンケートを行うという印象を受けたが、対面における対話はとても重要である。対話の内容をどのように反映するかを聞きたい。

オープンハウスでの対話については、対話しながらメモを取り、いただいた意見を整理して推進会議で報告する。また、アンケート調査の結果と同様、オープンハウスでの結果についても、導入機能の検討などに活用したいと考えている。

自身の事例を紹介すると、アンケート調査の際は、WEBアンケートと対面でのアンケートの両方を必ず実施している。対面でのアンケートは、WEBアンケートでの補足ではなく、インタビューを行うくらいの姿勢で実施している。

一人あたり、10分から15分程度の時間をかけ、相手の感情や気持ちを汲み取る目的で実施し、調査後は、聞き取りを行ったメンバーでワークショップを行い、意見を共有し、資料としてとりまとめている。そのくらいの姿勢で実施した方が効果が出ると考える。

オープンハウスについては確実に実施する。その中での対話については、コロナ禍の中で、どのように実施するかという点も踏まえて検討する。

本日、様々なキーワードをいただいたので、設問に組み込めるとよい。

本日いただいたご意見を踏まえて、アンケート調査の案を検討する。

アンケート調査については、制度設計をしっかりとしてから実施した方がよい。複数選択を可能にするのであれば、その数についても説明できるようにしなければならない。また、推進会議ではライフ、イノベーション、交流・にぎわいを切り口に検討しているため、そちらとの整合を図る必要もある。

アンケート調査については、ご指摘いただいた内容や、議題1でいただいたご意見も踏まえて、再度検討する。

ライフとイノベーション、交流・にぎわいに関して貴重なキーワード、お考えを聞かせていただいた。将来のまちの姿について、なんとなくイメージ出来たのではないかと思う。目指すまちの姿を絞り込めるようなアンケート調査を実施できるとよい。

本日の議題について、委員にアンケート調査を実施することを提案する。本日議論した内容以外にも、様々な意見があると思う。名前は伏せた状態で、一般市民、専門家などの意見として全員に公開してはどうかと考える。

今回はWEBでの開催ということもあり、発言が難しかったところもあると思うので、前向きに検討する。

(3) その他

今後のスケジュール等について確認した。

3 閉会

相模原駅北口地区まちづくり推進会議 委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	大沢 昌玄	日本大学 理工学部 土木工学科 教授	職務代理者	出席
2	佐藤 知正	東京大学 大学院 新領域創成科学研究科 名誉教授	会 長	出席
3	高橋 聡	内閣官房 地域活性化伝道師 (カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 公共サービス企画営業事業本部 事業本部長)		出席
4	牧瀬 稔	関東学院大学 法学部 地域創生学科 准教授		出席
5	安藤 孝洋	相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会 副会長		出席
6	小林 美羽	公益社団法人 相模原・町田大学地域コンソーシアム さがまち学生 Club 学生メンバー		出席
7	下河原 英樹	相模原商工会議所 総務部長		出席
8	中島 隆子	子育て親育ち応援団 W i t h . c f c 代表		出席
9	森 道洋	公益社団法人 相模原青年会議所 地区大会交流委員会 委員長		出席
10	安藤 重夫	株式会社 さがみはら産業創造センター 取締役 事業創造部長		出席
11	池田 亨	株式会社 横浜銀行 相模原駅前支店長		出席
12	牧野 英太郎	株式会社 J T B 相模原支店長		出席
13	赤瀬 公男	公募委員		出席
14	川口 久美	公募委員		出席
15	細谷 巧	公募委員		出席